

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	総合発達支援プラザ ふらっぷ1号館 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 18日		～ 2025年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 23日		～ 2025年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんが自己選択できる支援	<ul style="list-style-type: none"> 活動の流れに沿って複数のプログラムを実施する中で、お子さんの気持ちを確認しながら進めている。 言葉での表出が難しい場合には、実物提示、写真・絵の提示などを行い、そのお子さんが選択しやすい方法を検討し段階付けて実施している。 活動プログラムや生活の流れの中で、役割を担う場面を取り入れ、自分で判断し決定する機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> お子さんに合わせた支援方法の幅を広げる。
2	支援計画の作成と活動プログラムの内容	<ul style="list-style-type: none"> 5領域の項目を活かして幅広い視点でとらえた支援計画の作成を行っている。 その日に利用するお子さんに合わせて、活動プログラムの内容を検討し、支援計画の内容も踏まえて組み立てている。 多職種の視点を取り入れながら、活動プログラムの内容を検討し実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいを踏まえた、より具体的な支援内容の設定。 集団活動などのバリエーションを積極的に知る・学ぶ機会を持つ。
3	環境・スペースの利用方法	<ul style="list-style-type: none"> 環境(部屋)を分けて、少人数での活動プログラムを実施している。 活動内容や目的に応じて、設定の調整・変更をしながら実施している。 少人数での活動、集団での活動などプログラムに応じて環境を活かしながら実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムの内容に応じた、環境(部屋)ごとの活用方法の検討を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援センターとの連携	<ul style="list-style-type: none"> 併用している児も少ないため、直接的な連携の機会がほとんどない。 研修会の案内を頂いていたが、都合が合わず出席できていない。 助言が欲しいケースなどに関しては、関係機関で連携・相談しながら進めることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会へ参加する。 支援が困難なケースに関する担当者会議などへの同席を提案する。
2	地域との交流(こども同士、地域住民)	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を継続して実施しているため、積極的な取り組みが実施できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染対策を行いながら、安全に実施できる交流の機会を検討する。 地域の児童館等との具体的な交流方法を検討する。 地域に開かれた事業運営を再検討する。(今年度は、未就園児のお子さんと保護者を対象とした子育て応援の会の実施)
3	保護者交流・きょうだい同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会を1回/年実施できたが、頻度の少なさもあり、多くの方に提供できていない。 ご家族を対象としたハロウィンの行事を実施し、ごきょうだいの参加も見られたが、交流までは行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者交流会の実施方法(頻度・時間・内容など)を再検討する。 ご家族同士の交流も含めた参加型・協力型の行事を検討する。